

# 第 1 部

## 理 論 編



# 1 森林・林業体験のねらい

## 1.1 森林・林業体験とは

### 【森林・林業体験のねらい】

- 自ら進んで森林環境教育などに取り組む人材を育てます。
- 社会全体で森林の整備・保全を進めます。
- 森林が有する多面的な機能や森林資源の重要性を広く周知します。

森林は、生物多様性の保全、水源のかん養、保健休養の場の提供など、多くの機能を持っています。

森林・林業体験では、多面的機能を有する森林・林業に関する体験を通して得られる実感や理解を基に、問題の本質や取り組みを自ら考え、解決する能力を身につけ、自ら進んで森林環境教育に取り組む人材を育てていくことを目標としています。

あわせて社会全体で森林の整備・保全を進めること、および森林が有する多面的な機能や森林資源の重要性を広く周知することをねらいとしています。

### ■林野庁が推進する『森林・林業体験交流促進対策事業』

環境教育推進法（平成 15 年 7 月 25 日制定）においては、国の責務として環境教育の推進に努めることとされているとともに、小学校学習指導要領においても自然体験活動の充実が盛り込まれています。また、平成 20 年度より農林水産省、文部科学省、総務省の 3 省連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が進められており、今後、森林・林業体験活動に対する需要の増大が見込まれています。

さらに、「国有林野の管理経営に関する基本計画」（平成 20 年 12 月 16 日改定）においては、学校など多様な主体と連携しつつ、農山漁村における体験活動とも連携した森林環境教育を推進することとしています。

このような状況の中、国有林野事業においては森林環境教育の一層の推進を図るため、平成 21 年度から「森林・林業体験交流促進対策事業」を開始しました。

## 1.2 北潟の森における森林・林業体験の目的

- 北潟の森やその周辺の自然・歴史・文化の魅力を再発掘します。
- 様々な分野の人々と連携し、地域のつながりを強めます。
- 北潟の森の利活用を進めると同時に、北潟の森を体験活動のフィールドとします。

北潟の森は、林野庁が平成 21 年度から進めている、「森林・林業体験交流促進対策事業」の実施地域にあたります。

北潟の森をフィールドとした森林・林業の体験では、地元小中学校や NPO 団体などが独自に森林環境教育を実践し、様々な分野の人々と連携することで地域のつながりを強め、地域の自然・歴史・文化の魅力を再発掘することを目的としています。

あわせて、北潟の森を舞台とした森林環境教育の実践を通して、地域住民が主体となって北潟の森を体験活動の拠点とすることをねらいとしています。

## 2 北潟の森の紹介

### 2.1 北潟の森の概要

北潟の森は、福井森林管理署が管轄する国有林で、石川県との県境に近い福井県あわら市に位置し、越前加賀海岸国定公園、潮害防備保安林に指定されている海岸林です。地形は、平坦なところから傾斜の急なところまで変化に富み、林内にはクロマツが多く生育するほか、ヤブツバキの群落が見られます。

#### 【北潟の森の概要】

- 位置：福井県あわら市北潟
- 面積：39.25ha
- 法規制など：越前加賀海岸国定公園（第一種特別地域）  
潮害防備保安林  
銃猟禁止区域
- アクセス：あわら温泉より車で15分、福井市より車で50分



図1 あわら市と北潟の森の位置



図2 北潟の森の地図



北潟の森の外観

## 2.2 北潟の森の成り立ち

北潟の森は、江戸時代には藩有林で、魚付き林として機能したと伝えられています。戦後は、農地やゴルフ場への転用などによって面積が縮小した時代もありました。昭和30年代以降は、波浪による浸食にともなって、森林が後退しつつあったため、マツを植栽するなど森の育成が始まり、今の森の姿につながっています。

また、平成14年からは、森林とのふれあい活動、森林環境教育の場として利活用されています。

<b>江戸時代</b>			魚付き林であったという言い伝えもある（地元在住の方への聞き取り）。	藩有林
<b>明治時代</b>				↓
1869年	明治2年		国有林へ移行。	
1886年	明治19年		林区署制が施行され、大阪大林区署大聖寺小林区署の管内となる。	↓
<b>大正時代</b>				
1924年	大正13年		福井営林署設置。	
<b>昭和時代</b>				
1936年	昭和11年		北潟国有林を福井営林署へ編入。この時点の面積、約144ha。	↓
1940年	昭和20年		【国有林野の縮小】 戦後、農地やゴルフ場への転用が進み、約39haに縮小した。	
1950年代	昭和30年代		【防潮対策の実施】 波浪による浸食により、山腹斜面が崩壊し、森林が後退しつつあったため、山腹緑化工を施工。	
1972年～	昭和47年～		防潮護岸工と併せて山腹緑化工を施工。	
<b>平成時代</b>				↓
2002年～	平成14年～		【森林ふれあい活動の拠点として】 「ふれあいの森」協定 → 福井県フォレストサポーターの会と締結。森林整備や野外活動、投棄ごみの回収などの清掃活動などを実施。	
2006年～	平成18年～		【森林環境教育の場として】 「遊々の森」協定 → 林業体験活動、森林環境教育などの様々な学習活動のフィールドとすることを目的に、福井県フォレストサポーターの会、あわら市立波松小学校と締結。子どもや市民参加によるマツの植樹活動、自然体験活動などを実施。	





砂浜が広がっていたかつての海岸線と北潟の森（昭和 30 年代）



波浪による浸食で根が浮いた北潟の森のクロマツ（昭和 30 年代）





北潟の森で波浪による浸食対策として進められた山腹斜面の植栽（昭和 30 年代）



北潟の森の育成（林床の植栽）の様子（昭和 30 年代）





北潟の森の山腹斜面の復旧途中の様子(昭和30年代)



北潟の森を支える護岸工事(昭和50年代)